

# 園長だより

第四号 十月  
竹鼻保育園  
園長 川出昭順

## 乳幼児の教育について 保育園の役割

私は幼児教育には縁のないお寺の住職として人生をおくってきまし

た。ところが、急にとわか二年半前、竹鼻別院の輪番（責任者）になり、全く経験のない世界に入りました。私は若そうに見えますが、六十七歳で団塊世代です。別院の仕事は住職の延長ですので、そんなに問題はなかったのですが、保育園長は戸惑いました。



この写真を見ただけで楽しいですね。新聞を破ってプールの水にしているのかなあ。さくら4組のクラスだよりから頂きました。

保育園は何を教えるところなのか、子ども達に何をすべきところなのか、自分なりに考えておりましたが、毎

日元気な子ども達を見ながら、一緒に遊びながら、おぼろげに見えてきました。小学校へ入ったら読み書きそろばんがたたき込まれていきますが、最近では英語もそうらしいです。就学の準備期間と言われることがあります。保育園は根本的に違うと思います。

保育園に「保育通信」という月刊誌が来ます。その中に非常に興味を引く記事がありましたので紹介します。東大の教授で遠藤利彦という先生が、アメリカ人でヘックマンというノーベル賞を受賞した学者の発表された論文を引用されました。難しそうに聞こえますが、そうではありません。文中の筆者というのは遠藤先生のことです。

今から五十年ほど前、アメリカのある町のことです。黒人貧困層の子ども達、到底幼稚園には通えない家庭で育った子ども達を二つの群に振り分けました。一つの群は、三歳から二年間にわたって、幼稚園に通う。週に一回、子ども達の親は、先生から家庭訪問を受け、幼稚園と家庭における子ども達の様子や発達や教育のあり方について話し合いをもつ機会を得ました。もう一つの群は、こうした介入を全く受けられない子ども達でした。

この二つの群の子ども達は、その後、追跡調査を受け、様々な観点から比較されることになりました。すでに四十歳までの調査結果が公表されています。介入を受けた群の子ども達の方が、高校卒業率、収入、持ち家率などにおいて高く、離婚率、犯罪率、生活保護率において低いということ、すなわち、より経済的に安定し、健全な市民としての生活を享受できていることを示すも

のでした。

ここで重要なのは、何がその差を分けたのかということです。普通に考えたくなるのは、幼稚園で様々な教育を受けたわけですから、きっと「10」に代表されるような能力をより高水準に身につけることができ、その結果、大人になってからより成功を手にできたのだろうということかも知れません。確かに、介入を受けた子ども達のことかも知れませんが、「10」の伸びには目をみはるものがありました。しかし、この「10」の伸びは長続きしませんでした。介入が終了した直後から二つの群の差は徐々に狭まり、八歳の時点では再びほとんど違いがなくなっていました。

注目すべきは、四十歳の時点で経済状態や幸福・適応状態においてははっきりとした違いが認められたということです。ヘックマンは、この結果を受けて、「乳幼児において重要なのは、一般的に『頭のでき』といわれるような能力ではなく、むしろ『隠された心の力』をしつかりと身につけることである」と、はっきりと主張しました。

「隠された心の力」とは、筆者が考えるにそれらをもたらし主たるものは、幼稚園の特別な教育のプログラムでは必ずしもなく、ただ幼稚園には先生という温かい気持ちと良識を持った、いつてみればちゃんとした大人の人がいてくれたということであるような気がするのです。

考えてみれば、対象となった子ども達は、三歳時点で「10」七、八十五ということですので、経済的な困窮やそ

れに結びついた様々な家庭の問題によって、かなりのところで、その養育者から十分なケアやしつけを受けることができていなかったということが想定されます。そうした中で、幼稚園に行けば、そこには先生というたしかな存在があり、例えば子どもは怖くて不安なときに、先生にしつかりと抱きしめられ、そこで慰めを受けて、また元気に遊びに送り出してもらうということが繰り返されるので、安定して経験できたということが考えられるのです。（中略）こうしたことからすれば、介入を受けた子ども達の四十歳時点における幸せの基礎は、その子ども達が、家庭では十分に経験できなかったケアを、家庭の外でしつかりと補い得たということを通して、もたらされたものと考えることができるとでしょう。

筆者が思うに、そこにおいては、まさしく温かく確かなケアの中に、人が人生を生き抜く上で最も大切なものの教育が自然と含まれていたような気がするのです。

### 保育園からのお知らせ

保育園に大型遊具が入ることになりました。高さ7メートル近くもある巨大なものです。特に年長児年中児をターゲットにした遊具です。詳しいことは来月の「園長だより」に写真を掲載して紹介します。

その工事が十月にはいると始まりますので、いろいろとご迷惑をおかけするかも知れません。年内の完成は難しいようですが、年長児の子たちが少しでも遊ぶことができるように、業者をお願いしております。どうぞ、ご期待下さい。